

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 大項目1～13に関して設定した諸目標を達成することによって、本学部の使命・目的を実現する。	→大項目1～13において掲げられた諸目標に関して、それらの達成度の維持・向上。	B
2. カリキュラムや教員組織等が商学部の使命・目的に照らして妥当か否かに関して、常時継続的な検証努力を行う。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

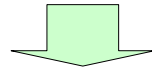
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 商学部の使命・目的を「理論と実践の関連を重視しつつ、経済活動の担い手たる企業や個人の多様でダイナミックな活動を、商学の視点から多面的に考察する。複雑な諸相を持つ社会の中で、機能や利害を異にする他の多くの主体との相利共生を創造的に図ってゆく能力を持つビジネス・パーソンを育成する」と定めている。  (現状説明) 2009年4月に学部の使命・目的を明確化し、大学学則の別表に掲載している。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 学部の使命・目的を明確化し、大学学則の別表に掲載するとともに、商学部入学宣誓式や毎週のチャペルにおいて、学生に語りかける努力を行っている。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 新カリキュラムを検討中であり、その際にも商学部の使命・目的を十分に斟酌して討議が行われている。
☆ その他	特にない。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	



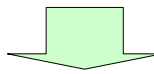
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○学部の使命・目的については、学生の中に深く浸透することが期待されます。

## 【学内委員】

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○理念・目的は、ホームページに掲載されています。また、学則もホームページに掲載されています。情報の公表は、刊行物への掲載だけでなく、ホームページへの掲載が求められています。そのことを念頭に置いていただくと共に、その記述をお願いします。

○理念・目的はそう簡単に変更するものではありませんが、定期的な検証は必要です。カリキュラム検討の際の付随的な検証も必要ですが、主課題として定期的な検証を望みます。

○小項目0.0.3の現状説明は、「理念・目的の適切性についての定期的検証」の現状説明にはなっていないのではないのでしょうか。

○目標2は使命・目的の妥当性検証ではなく、カリキュラム、教員組織の検証ですので、別項目の目標とすべきではないのでしょうか。

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 上記商学部の理念・目的は、従来商学部が掲げてきた理念・目的と伝統を確認、踏襲したものであり、教授会においても合意を得ている。また、商学部の理念・目的は、大学学則に明記され、これを根拠としたアドミッション・ポリシーは入試広報を通して広く社会に公表されている。教員にはカリキュラム再編に関する討議の過程においてある程度浸透しているが、毎年定期的な形で確認を行ってはいないし、新任教員への周知も十分であるとはいえない。また、学生への周知も、これを定期的な形で確認しているわけではない。次に、理念・目的の妥当性に関しては、毎年入試要項等の作成を通じて、執行部教員による検討はされている。また、カリキュラムの再編の作業に関わるカリキュラム委員会のメンバーも、常にこの理念・目標を前提として検討を進めている。しかし、教員全体の議論とはなっていないし、理念・目標の適切性に関する定期的な検証を行っていない。

#### V. 本項目の評価指標

##### <全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

##### <個別的な指標>
